

(様式第 10)

国循病発番 16101403 号
平成 28 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

国立研究開発法人
開設者名 国立循環器病研究センター
理事長 小川 久雄 (印)

国立循環器病研究センターの業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5-7-1
氏 名	国立研究開発法人国立循環器病研究センター

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立研究開発法人国立循環器病研究センター

3 所在の場所

〒565-8565	電話(06)6833-5012
大阪府吹田市藤白台5-7-1	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 循環器内科 3 神経内科 4 心臓血管内科 5 高血圧・腎臓内科	
6 糖尿病・代謝内科 7 脳神経内科 8 脳血管内科 9 10 11	
12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科							有・無
外科と組み合わせた診療科名							
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		⑮麻酔科	16救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							有・無
歯科と組み合わせた診療科名							
1	2	3	4	5	6	7	
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	2	3	4	5	6	7
リハビリテーション科	病理診断科	臨床遺伝科	周産期・婦人科			
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	612床	612床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	155 人	155 人	265.8 人	看護補助者	18 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	1 人	1 人	1.0 人	理学療法士	17 人	臨床検査技師	68 人
薬 剤 師	37 人	8 人	42.9 人	作業療法士	3 人	衛生検査技師	1 人
保 健 師	人	人	人	視能訓練士	1 人	その他	3 人
助 産 師	15 人	0 人	15.0 人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	644 人	20 人	657.8 人	臨床工学士	21 人	医療社会事業従事者	4 人
准看護師	人	人	人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	4 人
歯科衛生士	0 人	1 人	0.7 人	歯 科 技 工 士	人	事務職員	160 人
管理栄養士	5 人	3 人	7.4 人	診療放射線技師	45 人	その他の職員	122 人

(注) 1 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	29 人	眼 科 専 門 医	0 人
外 科 専 門 医	14 人	耳鼻咽喉科専門医	0 人
精 神 科 専 門 医	0 人	放 射 線 科 専 門 医	2 人
小 児 科 専 門 医	13 人	脳神経外科専門医	11 人
皮 膚 科 専 門 医	1 人	整 形 外 科 専 門 医	0 人
泌尿器科専門医	0 人	麻 酔 科 専 門 医	7 人
産婦人科専門医	9 人	救 急 科 専 門 医	1 人
		合 計	87 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (峰松 一夫) 任命年月日 平成 28 年 4 月 1 日

平成 22 年 4 月 1 日に当センター副院長に就任し、就任時より安全管理部長を兼任しており医療安全管理の業務を経験している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	479.3人	0人	479.3人
1日当たり平均外来患者数	413.6人	3.7人	417.3人
1日当たり平均調剤数	1079剤		
必要医師数	81人		
必要歯科医師数	1人		
必要薬剤師数	13人		
必要(准)看護師数	254人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1,215.97m ²	鉄筋コンクリート	病床数	40床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 113.7 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	4床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 51.9 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	264 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動臨床検査システム、尿分析装置			
細菌検査室	85.2m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) PCR検査システム、パルスフィールド電気泳動システム			
病理検査室	114 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電気泳動装置、自動染色装置			
病理解剖室	45.6m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡、超低温フリーザー			
研究室	7121.3m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) SPECT/CT、タンパク質ペプチド質量分析装置			
講義室	707.4m ²	鉄筋コンクリート	室数	5室	収容定員	475人
図書室	579 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	48,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	90.6%	逆紹介率	79.1%
算出 根拠	A: 紹介患者の数	6,762 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,653 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2,010 人	
	D: 初診の患者の数	9,679 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
H29.3.31 までに選定予定				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 H29.3.31までに選定及び公表予定	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経胎盤的抗不整脈薬投与療法	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要 胎児頻脈性不整脈に対し抗不整脈薬を経胎盤的に投与する【胎児治療】を行なう。			
医療技術名	アルテプラザーゼ静脈内投与による血栓溶解療法	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要 睡眠中発症及び発症時刻不明の急性脳梗塞患者に対し、アルテプラザーゼ0.6mg/kgを用いた静脈血栓溶解療法の安全性と有効性を、標準内科治療群との他施設共同非盲検群間比較法を用いて評価する。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	0	56	ベーチェット病	2
2	筋萎縮性側索硬化症	0	57	特発性拡張型心筋症	387
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	503
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	12
5	進行性核上性麻痺	0	60	再生不良性貧血	0
6	パーキンソン病	27	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	2
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリエー・トウス病	0	65	原発性免疫不全症候群	0
11	重症筋無力症	0	66	IgA腎症	51
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	0
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	2	68	黄色靱帯骨化症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	5	69	後縦靱帯骨化症	2
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	0
17	多系統萎縮症	0	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	4	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	0
21	ミトコンドリア病	0	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	331	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	223
25	進行性多巣性白質脳症	18	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	13	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	92
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	2
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	185
32	自己食食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	2
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	76
34	神経線維腫症	0	89	リンパ脈管筋腫症	0
35	天疱瘡	0	90	網膜色素変性症	1
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	0	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	0
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	1	95	自己免疫性肝炎	10
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	0
42	結節性多発動脈炎	0	97	潰瘍性大腸炎	2
43	顕微鏡的多発血管炎	0	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	0	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	0	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	34	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	6	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	2	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	2	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	0	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	1	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	0	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	0		疾 患 名	0
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	0
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	62
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジドリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	5
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	膵耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	10	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	204	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マガニス症候群	0
153	難治顔回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	67
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	127
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	92

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	38	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	53	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	30	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	5	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	417	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	135	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3	271	強直性脊椎炎	0
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシウスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	1
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料 一般病棟 7:1	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・救急医療管理加算	・小児入院医療管理料2 (5階東病棟のみプレイルーム加算あり)
・超急性期脳卒中加算	・
・妊産婦緊急搬送入院加算	・
・診療録管理体制加算1	・
・医師事務作業補助体制加算1 (40:1)	・
・急性期看護補助体制加算 25対1 (看護補助者50%未満)	・
・看護職員夜間12対1配置加算2	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・栄養サポートチーム加算 ※歯科医師連携加算あり	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1 (感染防止対策地域連携加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・
・退院支援加算1 注4・地域連携診療計画加算 有り	・
・認知症ケア加算2	・
・データ提出加算2	・
・特定集中治療室管理料1 (小児加算あり)	・
・特定集中治療室管理料3 (小児加算あり)	・
・ハイケアユニット入院医療管理料1	・
・新生児特定集中治療室管理料1	・

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

その1

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料 (植込型除細動器移行期加算)	・神経学的検査
・糖尿病合併症管理料	・画像診断管理加算1
・移植後患者指導管理料	・ポジトロン断層撮影
・糖尿病透析予防指導管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・夜間休日救急搬送医学管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・外来リハビリテーション診療料	・無菌製剤処理料
・ニコチン依存症管理料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・薬剤管理指導料	・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)
・医療機器安全管理料1	・処置の休日加算1
・医療機器安全管理料2	・処置の時間外加算1
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・処置の深夜加算1
・診療情報提供料(Ⅰ)の注14に掲げる地域連携診療計画加算	・一酸化窒素吸入療法
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・手術の休日加算1
・造血器腫瘍遺伝子検査	・手術の時間外加算1
・遺伝学的検査	・手術の深夜加算1
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・経皮的冠動脈形成術
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・経皮的冠動脈ステント留置術
・国際標準検査管理加算	・経皮的経カテーテル大動脈弁置換術
・血管内視鏡検査加算	・経皮的中隔心筋焼灼術
・植込型心電図検査	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・時間内歩行試験	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・胎児心エコー法	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・ヘッドアップティルト試験	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・皮下連続式グルコース測定	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
剖検の状況	剖検症例数 41例 / 剖検率 24.3 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
組織の適切な供給体制構築のための基盤構築に向けた研究	藤田 知之	心臓血管外科	5,760,000	①補委 厚生労働省科学研究費補助金
周産期(産褥性)心筋症の、早期診断スクリーニング検査の確立と抗プロラクチン療法の有効性の検討を含む、診療・治療ガイドライン作成研究	神谷 千津子	周産期・産婦人科部	870,000	①補委 厚生労働省科学研究費補助金
乳児特発性僧帽弁腫瘍断裂の病態解明と治療法の確立に関する総合的研究	白石 公	小児循環器部	1,521,000	①補委 厚生労働省科学研究費補助金
先天性心疾患児の成人期以降も含めた長期予後の把握のあり方に関する研究	白石 公	小児循環器部	5,250,000	①補委 厚生労働省科学研究費補助金
非肥満者に対する保健指導方法の開発に関する研究	宮本 恵宏	予防検診部	8,000,000	①補委 厚生労働省科学研究費補助金
臨床試験における不確実下の合理的意思決定とリスクの定量化・可視化の統計的方法	朝倉 こう子	DM/統計室	1,300,000	①補委 文部省科学研究費補助金
神経科学の哲学の基盤構築	菅原 裕輝	医学倫理研究室	158,578	①補委 文部省科学研究費補助金
ドナー・凍結・iPS細胞由来の配偶子の生殖利用に関する倫理的・法的问题の検討	遠矢 和希	医学倫理研究室	1,040,000	①補委 文部省科学研究費補助金
研究倫理の質向上、機能強化、支援促進のための共有・共通基盤の整備に関する研究	松井 健志	医学倫理研究室	12,740,000	①補委 文部省科学研究費補助金
生体内ライブイメージングによる血管安定化に関わる壁細胞動態の解析	安藤 康史	細胞生物学部	1,300,000	①補委 文部省科学研究費補助金
心筋細胞における一次シリアを介した心外膜腔内流れ感知システムの解明	福井 一	細胞生物学部	3,250,000	①補委 文部省科学研究費補助金
血管系におけるスフィンゴシン-1-リン酸シグナルの生理的・病的役割の解明	福原 茂朋	細胞生物学部	4,160,000	①補委 文部省科学研究費補助金
遺伝性洞性徐脈の新規因子同定および予防医学への応用	山崎 悟	細胞生物学部	1,690,000	①補委 文部省科学研究費補助金
血管内皮細胞とペリサイトの双方向性シグナルによる血管機能制御機構の解明	福原 茂朋	細胞生物学部	1,820,000	①補委 文部省科学研究費補助金
骨新生因子が仲介する骨-脂肪組織連関メカニズムの解明	高野 晴子	細胞生物学部	8,450,000	①補委 文部省科学研究費補助金
血管新生および血管安定化における血管内皮細胞の4D カルシウムイメージング解析	中嶋 洋行	細胞生物学部	1,820,000	①補委 文部省科学研究費補助金
ニコチン酸及びその代謝関連酵素の血中濃度と循環器疾患リスクに関する地域疫学研究	東山 綾	バイオバンク	910,000	①補委 文部省科学研究費補助金
冠動脈血栓症の病態解明と予防法の確立	大塚 文之	バイオバンク	1,040,000	①補委 文部省科学研究費補助金
血管新生における力の機能についての研究	望月 直樹	副所長	1,100,000	①補委 文部省科学研究費補助金
心筋型ミオシン軽鎖キナーゼを創薬標的とした新たな心血管作業の開発	瀬口 理	移植部	1,170,000	①補委 文部省科学研究費補助金
温度応答性ポリ乳酸ハイドロゲルを利用した心筋梗塞治療システムの開発	中谷 武嗣	移植部	2,340,000	①補委 文部省科学研究費補助金

小計
21

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
画像診断法を用いた動脈硬化モデル WHHLMiウサギの病態特性の解明	圓見 純一郎	画像診断医学部	1,040,000	補委	文部省科学研究費補助金
超高解像度局所分子機能定量SPECT画質改善のための画像再構成アルゴリズムの開発	銭谷 勉	画像診断医学部	1,430,000	補委	文部省科学研究費補助金
抑うつに対する両側性刺激の基礎的研究	山内 美穂	画像診断医学部	1,430,000	補委	文部省科学研究費補助金
ニューロングリア-血管連関に基づく多発性硬化症の多変量PET解析基盤構築研究	天満 敬	画像診断医学部	1,950,000	補委	文部省科学研究費補助金
PET検査における入力関数測定の新規化法の開発と応用	井口 智史	画像診断医学部	1,040,000	補委	文部省科学研究費補助金
拡張型心筋症治療を目標とした新たな自己抗体除去システムDNCSの開発	湊谷 謙司	血管外科部	4,420,000	補委	文部省科学研究費補助金
酸化LDL動態イメージングに基づく新しい抗動脈硬化機序の解明	中野 厚史	血管生理学部	2,600,000	補委	文部省科学研究費補助金
単独操作者によるポータブル使用が可能で耐久性に優れた超小型心臓補助システムの開発	妙中 義之	研究所	4,420,000	補委	文部省科学研究費補助金
先天性心疾患の診療支援をめざしたリアルタイム心拍動・マルチタッチ変形シミュレータ	中沢 一雄	研究情報基盤管理室	5,720,000	補委	文部省科学研究費補助金
生活習慣病における血管内皮特異的オートファジー制御機構の解明	林 真一郎	高血圧・腎臓部	1,820,000	補委	文部省科学研究費補助金
認知症治療薬の開発を見据えたTauのクリアランス機序の解明	齊藤 聡	再生医療部	1,560,000	補委	文部省科学研究費補助金
体温と血流量を指標とした睡眠改善物質探索のための新規アッセイ法	小川 優子	再生医療部	1,111,000	補委	文部省科学研究費補助金
心臓ナトリウム利尿ペプチドを用いた新しい周産期心筋症治療法の開発	大谷 健太郎	再生医療部	1,690,000	補委	文部省科学研究費補助金
心房性ナトリウム利尿ペプチドの血管保護作用を応用した癌細胞転移抑制機構	細田 洋司	再生医療部	1,560,000	補委	文部省科学研究費補助金
SIRT1活性化薬を用いた脳梗塞の新規予防/治療法の開発	服部 頼都	再生医療部	1,950,000	補委	文部省科学研究費補助金
脳小血管病におけるアクチン代謝異常のメカニズム解明と新規治療法の開発に向けた挑戦	山本 由美	再生医療部	1,950,000	補委	文部省科学研究費補助金
インドシアニンググリーンを用いた局所脳血流測定法の確立に関する研究	吉谷 健司	手術部	910,000	補委	文部省科学研究費補助金
不育症と妊娠高血圧症候群の遺伝的背景に関する研究	根木 玲子	周産期・婦人科部	1,430,000	補委	文部省科学研究費補助金
妊娠高血圧症候群に合併した周産期心筋症の発症機序と血管障害性マーカーの探索研究	神谷 千津子	周産期・婦人科部	1,820,000	補委	文部省科学研究費補助金
胎児心疾患における胎児心不全時の胎盤形態機能変化及び予知マーカー開発に関する研究	三好 剛一	周産期・婦人科部	2,210,000	補委	文部省科学研究費補助金
広領域循環シミュレータによる脳血管血行再建術支援のための血流制御機構の解明	片岡 大治	集中治療部	10,530,000	補委	文部省科学研究費補助金

小計
21

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自律神経システム自動医療の開発と適応拡張、および自動循環管理との統合的実用化	神谷 厚範	循環動態制御部	5,460,000	補委	文部省科学研究費補助金
心不全ラットにおける水代謝病態解明及び放水行動制御による治療効果の検討	鄭 燦	循環動態制御部	1,300,000	補委	文部省科学研究費補助金
迷走神経刺激による心筋幹細胞の賦活化を利用した新規心血管再生治療法の開発	李 梅花	循環動態制御部	1,560,000	補委	文部省科学研究費補助金
敗血症性ショックの循環管理、根本治療を自動最適化するコンピュータ制御システム開発	上村 和紀	循環動態制御部	1,430,000	補委	文部省科学研究費補助金
α2アドレナリン受容体作動薬を用いた新しい心不全薬物治療の開発	清水 秀二	循環動態制御部	2,340,000	補委	文部省科学研究費補助金
急性心筋梗塞に対する再灌流後短期的迷走神経刺激治療法の確立	稲垣 正司	循環動態制御部	1,040,000	補委	文部省科学研究費補助金
神経マイクロマシンと遺伝学的多次元蛍光イメージングによる自律神経細胞動態の解明	神谷 厚範	循環動態制御部	1,820,000	補委	文部省科学研究費補助金
Chronic electrical activation of the arterial baroreflex in hypertensive rats - determining the role of unmyelinated baroreceptors	TURNER MICHAEL	循環動態制御部	910,000	補委	文部省科学研究費補助金
乳児特異性僧帽弁腱索断裂の病因研究ー母親由来抗SSA抗体による組織障害について	白石 公	小児循環器部	1,950,000	補委	文部省科学研究費補助金
肺動脈性肺高血圧におけるヒト剖検心からの右室心筋病理の解析	岩朝 徹	小児循環器部	910,000	補委	文部省科学研究費補助金
トポロジーに着目した心臓病理検体からの先天性心疾患計算解剖モデルの構築	原口 亮	情報統括部	2,210,000	補委	文部省科学研究費補助金
特異性心室細動の不整脈基質に関する多面的解析とアブレーション治療に関する検討	永瀬 聡	不整脈科	39,910	補委	文部省科学研究費補助金
高磁場核磁気共鳴法とポジトロン断層法を用いた冠動脈プラークの定量的画像診断の構築	野口 輝夫	冠疾患科	1,950,000	補委	文部省科学研究費補助金
冠動脈硬化形成におけるPCSK9の役割の解明	片岡 有	心臓血管内科部門	1,560,000	補委	文部省科学研究費補助金
皮膚灌流圧を指標とした重症虚血肢に対する血管内治療:前向き多施設観察研究	河原田 修身	心臓血管内科部門	1,170,000	補委	文部省科学研究費補助金
心臓リハビリテーションによる脳由来神経栄養因子を介した心不全治療の検討	高潮 征爾	心臓血管内科部門	650,000	補委	文部省科学研究費補助金
心不全における呼気低分子化合物の意義	横川 哲朗	心臓血管内科部門	1,950,000	補委	文部省科学研究費補助金
免疫応答に着目した心臓サルコイドーシスに対する新規診断法およびリスク層別法の開発	永井 利幸	心臓血管内科部門	2,340,000	補委	文部省科学研究費補助金
拡張期心不全の病態生理の解明と前臨床試験を見据えた新しい実験モデルの開発	高濱 博幸	心臓血管内科部門	1,950,000	補委	文部省科学研究費補助金
医療の質向上と発症予測モデル開発のための包括的循環器疾患登録プラットフォーム構築	安田 聡	心臓血管内科部門	5,850,000	補委	文部省科学研究費補助金
特異性拡張型心筋症における樹状細胞の心筋浸潤および成熟化の臨床的意義	菅野 康夫	心臓血管内科部門	1,430,000	補委	文部省科学研究費補助金

小計
21

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
不安定動脈硬化巣を検出する核磁気共鳴法を用いた新たな冠動脈・分子画像診断法の開発	浅海 泰栄	心臓血管内科部門	1,560,000	補委 文部省科学研究費補助金
遺伝性不整脈疾患における突然死リスクの新しい非侵襲的評価法の開発	相庭 武司	不整脈科	1,820,000	補委 文部省科学研究費補助金
生体ガスによる活性酸素種計測法の開発と臨床応用	下内 章人	心臓生理機能部	13,000,000	補委 文部省科学研究費補助金
皮膚活性酸素種の新規計測法の開発と臨床応用	神野 直哉	心臓生理機能部	1,430,000	補委 文部省科学研究費補助金
拡張型心筋症の心臓迷走神経性病態の解明と新規治療薬の開発に関する研究	白井 幹康	心臓生理機能部	1,200,000	補委 文部省科学研究費補助金
ADAM/ADAMTSプロテアーゼによる基質認識と制御機構の構造生物学的研究	武田 壮一	心臓生理機能部	1,690,000	補委 文部省科学研究費補助金
モノアミン動態への薬理的介入による虚血・再灌流時心筋細胞傷害軽減の検討	秋山 剛	心臓生理機能部	1,170,000	補委 文部省科学研究費補助金
選択的除神経法による運動昇圧反射メカニズムの解明	土持 裕胤	心臓生理機能部	1,560,000	補委 文部省科学研究費補助金
高血圧発症における延髄心臓血管中枢の微小循環機能障害の役割	白井 幹康	心臓生理機能部	1,690,000	補委 文部省科学研究費補助金
低酸素による右心室肥大の意義と心不全への変遷機構の解明	稲垣 薫克	心臓生理機能部	780,000	補委 文部省科学研究費補助金
Ca ²⁺ 負荷モデルマウスで発症する心肥大心不全に対する効果的な薬物運動療法の研究	金 美花	心臓生理機能部	2,080,000	補委 文部省科学研究費補助金
次世代型自家組織由来心臓弁グラフト(バイオバルブ)の開発研究	武輪 能明	人工臓器部	3,940,000	補委 文部省科学研究費補助金
心不全の能動的治療を可能とする超小型カテーテル式補助循環デバイスの研究開発	住倉 博仁	人工臓器部	5,460,000	補委 文部省科学研究費補助金
植込式連続流型人工心臓の異常停止時および離脱試験時に使用可能な流路調節装置の開発	巽 英介	人工臓器部	1,430,000	補委 文部省科学研究費補助金
生体内組織形成術により作製したバイオバルブの全人工心臓への応用	住倉 博仁	人工臓器部	1,430,000	補委 文部省科学研究費補助金
自己組織由来心臓弁(バイオバルブステント)によるカテーテル的移植の可能性の検討	武輪 能明	人工臓器部	1,300,000	補委 文部省科学研究費補助金
補助人工心臓治療を高度化する能動的計測法による新しいモニタリングシステムの構築	大沼 健太郎	人工臓器部	1,560,000	補委 文部省科学研究費補助金
僧帽弁閉鎖不全症モデルに対する自己心拍同期回転数制御システムの影響	内藤 敬嗣	人工臓器部	1,950,000	補委 文部省科学研究費補助金
糖尿病患者が補助循環中に受ける炎症と臓器傷害の機序解明 -小動物モデル評価-	藤井 豊	人工臓器部	1,430,000	補委 文部省科学研究費補助金
C型ナトリウム利尿ペプチド(CNP)の脂質・エネルギー代謝における新たな役割	ベ チヨロン	生化学部	1,560,000	補委 文部省科学研究費補助金
脳腫瘍ペプチドによる中枢および自律神経系を介した新たな循環調節機構の解明	宮里 幹也	生化学部	5,330,000	補委 文部省科学研究費補助金

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
グレリンの生理作用を応用した新しい循環器疾患治療法の開発	徳留 健	生化学部	1,560,000	補	文部省科学研究費補助金
三量体Gタンパク質G12/13を活性化する新規生理活性ペプチドの同定と機能解析	森 美和	生化学部	1,950,000	補	文部省科学研究費補助金
BMP-3bの新たなアディポサイトカインとしての機能およびその病態生理学的役割	日野 純	生化学部	1,170,000	補	文部省科学研究費補助金
新規生理活性ペプチドの同定による新たな摂食及びエネルギー代謝調節機構の解明	吉田 守克	生化学部	1,820,000	補	文部省科学研究費補助金
アンフィビアスに至る脊椎動物の進化モデル動物のグレリンシステムの変遷	海谷 啓之	生化学部	1,820,000	補	文部省科学研究費補助金
新たな活性検出法を用いた新規生理活性ペプチドの同定による新しい生体調節機構の解明	森 健二	生化学部	1,430,000	補	文部省科学研究費補助金
脂肪酸修飾構造に基づく新規生理活性ペプチドの系統的探索と機能解析	宮里 幹也	生化学部	2,210,000	補	文部省科学研究費補助金
肺線維症・間質性肺炎とその急性増悪に対するGNPを用いた新規治療の基礎確立	木村 亨	生化学部	1,690,000	補	文部省科学研究費補助金
心房性ナトリウム利尿ペプチドの血管保護作用による革新的治療法の開発	野尻 崇	生化学部	1,560,000	補	文部省科学研究費補助金
組織非蓄積性高分子MRI造影剤による移植iPS細胞トラッキング	徐 ユイ	生体医工学部	1,560,000	補	文部省科学研究費補助金
生体組織の三次元的な機能・構造再生に関する研究	神戸 裕介	生体医工学部	1,690,000	補	文部省科学研究費補助金
光造形と体内造形の融合による自家組織バイオバルブ心臓弁の開発とTAVIへの展開	中山 泰秀	生体医工学部	5,330,000	補	文部省科学研究費補助金
高分子MRI造影剤による脳微細血管網イメージング技術の開発	馬原 淳	生体医工学部	1,040,000	補	文部省科学研究費補助金
生体幹細胞ニッチを保持した人工ECMによる自己幹細胞からの拍動心筋細胞分化誘導	山岡 哲二	生体医工学部	2,340,000	補	文部省科学研究費補助金
免疫吸着療法に代わる自己抗体選択的除去ナノ分子システムによる拡張型心筋症の治療	姜 貞勲	生体医工学部	1,820,000	補	文部省科学研究費補助金
Biotube 成長への挑戦 ～若齢ビーグル犬モデルの作製から実証へ～	古越 真耶	生体医工学部	1,430,000	補	文部省科学研究費補助金
生体内組織形成術を基盤とする自己再生型透析シャント用代用血管の開発	中山 泰秀	生体医工学部	1,820,000	補	文部省科学研究費補助金
生体内病因物質の捕捉・異所代謝経路への誘導を行うキメラタンパク薬剤の設計開発	神戸 裕介	生体医工学部	2,990,000	補	文部省科学研究費補助金
血管内治療デバイス設置における未破裂脳動脈瘤の塞栓指標の確立	森脇 健司	生体医工学部	2,340,000	補	文部省科学研究費補助金
自己組織化による生きた細胞立体構造物「セルカプセル」の開発と心筋再生治療への応用	岩井 良輔	生体医工学部	1,950,000	補	文部省科学研究費補助金
iPS細胞のソーティングに伴う損傷の評価: 細胞ローリングカラムを用いた比較検討	大高 晋之	生体医工学部	2,470,000	補	文部省科学研究費補助金

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
体内植込み型医療機器臨床試験における倫理的問題の検討	中田 はる佳	知的資産部	593,074	補委 文部省科学研究費補助金
ヒトPS細胞由来脂肪細胞を用いた脂肪萎縮性の成因解明と治療法開発の研究	細田 公則	動脈硬化・糖尿病内科部	2,685,199	補委 文部省科学研究費補助金
fMRI等による摂食調節系と脳内報酬系の相互作用の解明: 摂食の解明を目指して	細田 公則	動脈硬化・糖尿病内科部	3,640,000	補委 文部省科学研究費補助金
急性期脳主幹動脈閉塞に対する血行再建療法の適応基準策定に関する研究	早川 幹人	脳血管内科部	1,690,000	補委 文部省科学研究費補助金
細胞外タウ除去機構の破綻に基づくアルツハイマー病の病態解明と新規抗糖化療法の開発	猪原 匡史	脳神経内科	9,360,000	補委 文部省科学研究費補助金
コレステロール合成・吸収機構におけるヘパラン硫酸プロテオグリカンの作用機序の解明	池末 昌弘	病態ゲノム医学部	1,300,000	補委 文部省科学研究費補助金
HDLの質は心血管病の治療ターゲットとして有望か?	小倉 正恒	病態代謝部	2,340,000	補委 文部省科学研究費補助金
PCSK9の形態が家族性高コレステロール血症や肥満・糖尿病に及ぼす影響の解明	堀 美香	病態代謝部	2,080,000	補委 文部省科学研究費補助金
閉塞系幹細胞培養上清を用いた新規動脈硬化性疾患の治療法の開発及び作用機序の解明	高藤 義正	病態代謝部	2,340,000	補委 文部省科学研究費補助金
若年性大動脈瘤・解離の新規病因としてのフィラミン機能異常に関する検討	森崎 裕子	分子生物学部	1,430,000	補委 文部省科学研究費補助金
成熟心筋細胞の恒常性維持に対するポリコム遺伝子群の機能解析	白井 学	分子生物学部	4,550,000	補委 文部省科学研究費補助金
転写共役因子Vgl2を介した新規運動制御機構の基礎的解析	本多 賢彦	分子生物学部	1,170,000	補委 文部省科学研究費補助金
哺乳類心臓発生における二次心臓形成領域の細胞動態解析	渡邊 裕介	分子生理部	1,820,000	補委 文部省科学研究費補助金
心血管系の発生・形態形成に働くシグナル伝達機構の研究	中川 修	分子生理部	7,540,000	補委 文部省科学研究費補助金
pH調節トランスポーターNHE1から発信される膜局所pHシグナルの形成機構の解明	久光 隆	分子生理部	1,950,000	補委 文部省科学研究費補助金
形質膜イオン輸送体近傍から発信する細胞内シグナル増幅機構の解明	若林 繁夫	分子生理部	1,560,000	補委 文部省科学研究費補助金
心筋症・心不全発症機構の伸展刺激感受性イオンチャネル機能解析からの解明	岩田 裕子	分子生理部	1,560,000	補委 文部省科学研究費補助金
カルシウムシグナル調節を介した新規代謝制御機構の解明	西谷 友重	分子生理部	1,950,000	補委 文部省科学研究費補助金
新規手法による心血管発生・形態形成関連因子の機能解析	中川 修	分子生理部	2,210,000	補委 文部省科学研究費補助金
発生学的考察に基づいた、低出生体重児の循環器リスクを明らかにする基盤技術の創出	有馬 勇一郎	分子生理部	3,900,000	補委 文部省科学研究費補助金
NDRGファミリータンパク質によるナトリウム/カリウムATPaseの機能調節	井本 ひとみ	分子病態部	887,001	補委 文部省科学研究費補助金

小計
21

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
シス型プロリン残基をもつ分泌タンパク質の小胞体における品質管理	小亀 浩市	分子病態部	1,690,000	補委	文部省科学研究費補助金
凝固線溶系遺伝子変異マウスを用いた本邦血栓症の分子病態学的特徴の確立	坂野 史明	分子病態部	1,170,000	補委	文部省科学研究費補助金
β3インテグリン機能発現におけるキンドリンの役割解明と新たな因子の探索・同定	本田 繁則	分子病態部	1,560,000	補委	文部省科学研究費補助金
小胞体ストレスで発動するDerlin-3の分子機能と細胞保護効果の解明	樋口 由佳 (江浦由佳)	分子病態部	1,430,000	補委	文部省科学研究費補助金
生理活性ペプチド前駆体VGFの機能解明を目的とするペプチドミクス	佐々木 一樹	分子薬理部	1,690,000	補委	文部省科学研究費補助金
多機能面からのリポ蛋白質パーゼ分子診断による動脈硬化の早期診断・予防システム構築	高木 敦子	分子薬理部	1,300,000	補委	文部省科学研究費補助金
細胞周期依存的な新しいホルモン作用切り換え機構の発見とその役割の解明	波多江 利久	分子薬理部	1,040,000	補委	文部省科学研究費補助金
心機能検査指標を用いたバンコマイシン個別最適投与方法開発に関する基礎研究	島本 裕子	薬剤部	1,690,000	補委	文部省科学研究費補助金
大規模疫学研究による飲酒がインスリン作用に及ぼす影響の解明	辰巳 友佳子	予防医学・疫学情報部	1,300,000	補委	文部省科学研究費補助金
循環器疾患の予防に向けた性差に基づく脂質管理に関する研究	竹上 未紗	予防医学・疫学情報部	2,210,000	補委	文部省科学研究費補助金
大規模コホートに基づく個別化されたリスク予測ツール、バイオマーカーの有用性の研究	西村 邦宏	予防医学・疫学情報部	1,300,000	補委	文部省科学研究費補助金
研究倫理コンサルテーションの調査と試行に基づく事例集積モデル構築	會澤 久仁子	予防医学・疫学情報部	650,000	補委	文部省科学研究費補助金
慢性閉塞性肺疾患と冠動脈動脈硬化の共通リスク要因に関する国際比較研究	宮本 恵宏	予防健診部	4,160,000	補委	文部省科学研究費補助金
都市部一般住民を対象とした心房細動の実態とリスクスクアア作成に関する研究	小久保 喜弘	予防健診部	3,510,000	補委	文部省科学研究費補助金
都市部地域住民を対象とする血漿Na利尿ペプチドと頸動脈硬化の進展に関する追跡研究	小久保 喜弘	予防健診部	650,000	補委	文部省科学研究費補助金
好中球のRhoキナーゼ活性で冠動脈病変の進行と病態を予測する事ができるか?	渡邊 琢也	予防健診部	1,300,000	補委	文部省科学研究費補助金
遺伝カウンセリングの質向上を目指したエラーの収集と分析	吉田 晶子	臨床遺伝科	1,040,000	補委	文部省科学研究費補助金
虚血性心疾患における心筋特異的ミオン軽鎖およびリン酸化の意義とその治療への展開	北風 政史	臨床研究部	6,630,000	補委	文部省科学研究費補助金
虚血性心疾患治療を目指した心臓における細胞極性を制御するメカニズムの解明	中野 敦	臨床研究部	1,430,000	補委	文部省科学研究費補助金
心筋線維芽細胞特異的発現を示す新たな増殖因子受容体の精製・同定	北風 政史	臨床研究部	2,210,000	補委	文部省科学研究費補助金
小児医療をめざす小口径心臓弁の開発:皮下でつくる心臓弁の組織制御に関する研究	船山 麻理菜	臨床研究部	1,690,000	補委	文部省科学研究費補助金

小計
21

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
体外式心臓補助装置の人工肺におけるガス交換性能管理支援システムの開発	西垣 孝行	臨床工学部	2,210,000	補 委	文部省科学研究費補助金
世界に先駆けた革新的新薬・医療機器創出のための臨床試験拠点整備事業	峰松 一夫	副院長	82,551,000	補 委	AMED
臨床試験支援機能構築事業	峰松 一夫	副院長	65,907,000	補 委	AMED
国産医療機器創出基盤整備等事業	赤川 英毅	副院長	2,778,000	補 委	AMED
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

小計
4

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	小林 順二郎	副院長	Socioeconomic effects of surgical site infection after cardiac surgery in Japan	SURGERY TODAY 45, 422-428(2015)
2	小林 順二郎	副院長	Risk of Coronary Obstruction in Transcatheter Aortic Valve Replacement	CIRCULATION JOURNAL 79, 2,100-2,102(2015)
3	中谷 武嗣	移植部門長	The Registry Report of Heart Transplantation in Japan (1999-2014)	CIRCULATION JOURNAL 80, 44-50(2015)
4	豊田 一則	脳血管部門長	Acute Reperfusion Therapy and Stroke Care in Asia After Successful Endovascular Trials	STROKE 46, 1,474-1,481(2015)
5	豊田 一則	脳血管部門長	Trends in oral anticoagulant choice for acute stroke patients with nonvalvular atrial fibrillation in Japan: The SAMURAI-NVAF Study	INTERNATIONAL JOURNAL OF STROKE 10, 836-842(2015)
6	野口 輝夫	冠疾患科部長	Effect of Intensive Statin Therapy on Coronary High-Intensity Plaques Detected by Noncontrast T1-Weighted Imaging The AQUAMARINE Pilot Study	JOURNAL OF THE AMERICAN COLLEGE OF CARDIOLOGY 66, 245-
7	後藤 葉一	循環器病リハビリテーション 部長	Exercise capacity: Just a powerful prognostic predictor, or a potential therapeutic target in patients with chronic heart failure?	CIRCULATION JOURNAL 79, 2,547-2,548(2015)
8	片岡 有	心臓血管内科 医長	Atheroma Progression in Obese Early-stage Diabetic Japanese Patients in Response to Glycemic Control: Sub-analysis from the DIANA Study	JOURNAL OF ATHEROSCLEROSIS AND THROMBOSIS 22, 697-
9	榎野 久士	動脈硬化・糖尿病内科 医長	Decreased levels of circulating CD34(+) cells are associated with coronary heart disease in Japanese patients with type 2 diabetes	JOURNAL OF DIABETES INVESTIGATION 6, 473-478(2015)

10	秦 広樹	心臓外科 医長	A 25-year study of chordal replacement with expanded polytetrafluoroethylene in mitral valve repair	INTERACTIVE CARDIOVASCULAR AND THORACIC SURGERY
11	田中 裕史	血管外科 医長	Recent thoraco-abdominal aortic repair outcomes using moderate-to-deep hypothermia combined with targeted reconstruction of the Adamkiewicz artery	INTERACTIVE CARDIOVASCULAR AND THORACIC SURGERY
12	小久保 喜弘	健康診査室 医長	Interaction of Blood Pressure and Body Mass Index With Risk of Incident Atrial Fibrillation in a Japanese Urban Cohort: The Suita Study	AMERICAN JOURNAL OF HYPERTENSION 28, 1,355-1,361(2015)
13	古賀 政利	脳卒中集中治療科 医長	Blood glucose levels during the initial 72 h and 3-month functional outcomes in acute intracerebral hemorrhage: The SAMURAI-ICH study	JOURNAL OF THE NEUROLOGICAL SCIENCES 350, 75-78(2015)
14	神崎 秀明	心不全科 医長	Comparison of the Acute Effects of Right Ventricular Apical Pacing and Biventricular Pacing in Patients with Heart Failure	INTERNAL MEDICINE 54, 1,329-1,335(2015)
15	片岡 大治	集中治療科(NCU)医長	Results of Prospective Cohort Study on Symptomatic Cerebrovascular Occlusive Disease Showing Mild Hemodynamic Compromise [Japanese Extracranial-Intracranial Bypass Trial	NEUROLOGIA MEDICO-CHIRURGICA 55, 460-468(2015)
16	岡村 英夫	不整脈科 医長	Risk Stratification in Patients With Brugada Syndrome Without Previous Cardiac Arrest - Prognostic Value of Combined Risk Factors -	CIRCULATION JOURNAL 79, 310-317(2015)
17	大内 秀雄	成人先天性心疾患科 医長	Prognostic Value of Exercise Variables in 335 Patients after the Fontan Operation: A 23-year Single-center Experience of Cardiopulmonary Exercise Testing	CONGENITAL HEART DISEASE 10, 105-116(2015)
18	朝倉 正紀	心臓血管内科 医長	Rationale and Design of the Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled Multicenter Trial on Efficacy of Early Initiation of Eplerenone Treatment in Patients with	CARDIOVASCULAR DRUGS AND THERAPY 29, 179-185(2015)
19	相庭 武司	不整脈科 医長	Acetylcholine Suppresses Ventricular Arrhythmias and Improves Conduction and Connexin-43 Properties During Myocardial Ischemia in Isolated Rabbit Hearts	JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ELECTROPHYSIOLOGY
20	大郷 剛	肺循環科 医長	Balloon pulmonary angioplasty for inoperable chronic thromboembolic pulmonary hypertension	Current Opin Pulm Med 21, 425-431(2015)

21	河原田 修身	血管科 医長	Below-the-elbow intervention for Buerger's disease.	Cardiovasc Interv Ther 30, 385-389(2015)
22	秦 広樹	心臓外科 医長	Early and mid-term outcomes of left ventricular assist device implantation and future prospects	General Thoracic and Cardiovascular Surgery 63, 557-
23	浅海 泰栄	心臓血管系集中治療科 (CCU) 医長	High-Intensity Plaques on Noncontrast T1-Weighted Imaging as a Predictor of Periprocedural Myocardial Injury	JACC-Cardiovascular Imaging 8, 741-743(2015)
24	岸本 一郎	糖尿病・代謝内科 医長	Impact of B-type natriuretic peptide (BNP) on development of atrial fibrillation in people with Type 2 diabetes.	Diabet Med. Epub 33(8):1118-24(2015)
25	岸本 一郎	糖尿病・代謝内科 医長	Intensity of statin therapy and new hospitalizations for heart failure in patients with type 2 diabetes.	BMJ Open Diabetes Res Care. 3, e000137(2015)
26	浅海 泰栄	心臓血管系集中治療科 (CCU) 医長	Non-contrast T1-weighted magnetic resonance imaging at 3.0 Tesla in a patient undergoing elective percutaneous coronary intervention - clinical and pathological significance of	CIRCULATION JOURNAL 79, 218-220(2015)
27	浅海 泰栄	心臓血管系集中治療科 (CCU) 医長	Non-invasive volumetric assessment of aortic atheroma: a core laboratory validation using computed tomography angiography	INTERNATIONAL JOURNAL OF CARDIOVASCULAR IMAGING 32, 121-
28	吉原 史樹	高血圧・腎臓科 医長	Why Is Proteinuria an Independent Risk Factor for Contrast-Induced Nephropathy?	CIRCULATION JOURNAL 79, 1,456-1,457(2015)
29	吉原 史樹	高血圧・腎臓科 医長	Related factors for worsening renal function following percutaneous transluminal renal angioplasty (PTRA) in patients with atherosclerotic renal artery stenosis	Clinical and Experimental Hypertension 37, 526-530(2015)
30	吉原 史樹	高血圧・腎臓科 医長	Aggravated renal tubular damage and interstitial fibrosis in mice lacking guanylyl cyclase-A (GC-A), a receptor for atrial and B-type natriuretic peptides	CLINICAL AND EXPERIMENTAL NEPHROLOGY 19, 197-207(2015)
31	佐藤 祥一郎	脳血管内科 医長	Higher mortality in patients with right hemispheric intracerebral haemorrhage: INTERACT1 and 2	Journal of Neurology, Neurosurgery & Psychiatry 86, 1,319-

32	佐藤 祥一郎	脳血管内科 医長	Off-hour admission and outcomes in patients with acute intracerebral hemorrhage in the INTERACT2 trial	Cerebrovascular Diseases 40, 114-120(2015)
33	片岡 有	心臓血管内科 医長	Atheroma progression in hyporesponders to statin therapy	ARTERIOSCLEROSIS THROMBOSIS AND VASCULAR BIOLOGY
34	片岡 有	心臓血管内科 医長	Plaque microstructures in patients with coronary artery disease who achieved very low low-density lipoprotein cholesterol levels	ATHEROSCLEROSIS 242, 490-495(2015)
35	片岡 有	心臓血管内科 医長	Plaque vulnerability at non-culprit lesions in obese patients with coronary artery disease: Frequency-domain optical coherence tomography analysis	European Journal of Preventive Cardiology 22, 1,331-1,339(2015)
36	木曾 啓祐	RI室 医長	Usefulness of Nuclear Medicine: "PET/SPECT Imaging" for Management of Recipients after Heart Transplantation	Annals of Nuclear Cardiology 1, 53-60(2015)
37	長谷川 拓也	心不全科 医師	Plasma B-type natriuretic peptide is a useful tool for assessing coronary heart disease risk in a Japanese general population	HYPERTENSION RESEARCH 38, 74-79(2015)
38	大原 貴裕	心不全科 医師	Role of Diastolic Function in Preserved Exercise Capacity in Patients with Reduced Ejection Fractions	JOURNAL OF THE AMERICAN SOCIETY OF ECHOCARDIOGRAPHY
39	吉村 壮平	脳血管内科 医師	Cerebral Small-Vessel Disease in Neuro-Behcet Disease	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES 24, E237-
40	三好 剛一	婦人科 医師	Fetal Bradyarrhythmia Associated With Congenital Heart Defects - Nationwide Survey in Japan	CIRCULATION JOURNAL 79, 854-861(2015)
41	宮本 康二	不整脈科 医師	Efficacy and safety of flecainide for ventricular arrhythmias in patients with Andersen-Tawil syndrome with KCNJ2 mutations	HEART RHYTHM 12, 596-603(2015)
42	三隅 祐輔	心臓血管外科 医師	The Importance of Hybrid Stage I Palliation for Neonates with Critical Aortic Stenosis and Reduced Left Ventricular Function	PEDIATRIC CARDIOLOGY 36, 726-731(2015)

43	丸山 大輔	脳神経外科 医師	Evaluation of carotid artery outward remodeling by T1-weighted magnetic resonance imaging in carotid endarterectomy and stenting	JOURNAL OF VASCULAR SURGERY 61, 1,464- U127(2015)
44	松山 高明	臨床病理科 医師	Pathology in the late phase after extensive and ostial pulmonary vein ablation for atrial fibrillation: Findings in 2 postmortem cases	HEART RHYTHM 12, 425- 429(2015)
45	松本 順彦	心臓血管外科 医師	Hemodynamic Performance and Durability of Mosaic Bioprostheses for Aortic Valve Replacement, up to 13 Years	CIRCULATION JOURNAL 79, 1,044- 1,051(2015)
46	前田 琢磨	輸血管理室 医師	Impact of preoperative extracorporeal membrane oxygenation on vasoactive inotrope score after implantation of left ventricular assist device	SPRINGERPLUS 4, 821(2015)
47	帆足 孝也	小児心臓外科 医師	Intrinsic Obstruction in Pulmonary Venous Drainage Pathway is Associated with Poor Surgical Outcomes in Patients with Total Anomalous Pulmonary Venous	PEDIATRIC CARDIOLOGY 36, 432- 437(2015)
48	帆足 孝也	小児心臓外科 医師	Management of ostium secundum atrial septal defect in the era of percutaneous trans-catheter device closure: 7-Year experience at a single institution	JOURNAL OF CARDIOLOGY 65, 418- 422(2015)
49	帆足 孝也	小児心臓外科 医師	Surgical experience for prolapse of both atrioventricular valves in a patient with filamin A mutation	CARDIOLOGY IN THE YOUNG 25, 365- 367(2015)
50	帆足 孝也	小児心臓外科 医師	Suspected cold agglutination during mild hypothermic pediatric open heart surgery: a report of two cases	JOURNAL OF ARTIFICIAL ORGANS 18, 370- 372(2015)
51	帆足 孝也	小児心臓外科 医師	The current trends of mortality following congenital heart surgery: the Japan Congenital Cardiovascular Surgery Database	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 21, 151-
52	永井 利幸	心臓血管内科 医師	Effect of Corticosteroid Therapy on Long-Term Clinical Outcome and Left Ventricular Function in Patients With Cardiac Sarcoidosis	CIRCULATION JOURNAL 79, 1,593- 1,600(2015)
53	田中 智貴	脳神経内科 医師	Seizure Outcomes and Predictors of Recurrent Post-Stroke Seizure: A Retrospective Observational Cohort Study	PLOS ONE 10, e0136200(2015)

54	立石 恵実	RI室 医師	Prognostic impact of blood pressure response plus gadolinium enhancement in dilated cardiomyopathy	HEART 101, 774-780(2015)
55	高潮 征爾	心不全科 医師	Significance of Low Plasma Levels of Brain-Derived Neurotrophic Factor in Patients With Heart Failure	AMERICAN JOURNAL OF CARDIOLOGY 116, 243-249(2015)
56	瀬口 理	移植対策室 医師	Evaluation of micro-emboli in a patient with ventricular assist device support with hemolysis	JOURNAL OF ARTIFICIAL ORGANS 18, 276-279(2015)
57	瀬口 理	移植対策室 医師	Incidence, etiology, and outcome of primary graft dysfunction in adult heart transplant recipients: a single-center experience in Japan	Heart and Vessels Epub 31(4):555-62(2015)
58	佐藤 琢磨	移植対策室 医師	Restrictive myocardium with an unusual pattern of apical hypertrophic cardiomyopathy	CARDIOVASCULAR PATHOLOGY 24, 254-257(2015)
59	佐藤 琢磨	移植対策室 医師	Serum Brain Natriuretic Peptide Concentration 60 Days After Surgery as a Predictor of Long-Term Prognosis in Patients Implanted With a Left Ventricular Assist Device	ASAIO JOURNAL 61, 373-378(2015)
60	坂口 平馬	小児循環器科 医師	Cardiac Resynchronization Therapy for Various Systemic Ventricular Morphologies in Patients With Congenital Heart Disease	CIRCULATION JOURNAL 79, 649-655(2015)
61	鎌倉 令	不整脈科 医師	Evaluation of the Necessity for Cardioverter-Defibrillator Implantation in Elderly Patients With Brugada Syndrome	CIRCULATION-ARRHYTHMIA AND ELECTROPHYSIOLOGY
62	尾田 達哉	血管外科 医師	Prosthetic vascular graft infection through a median sternotomy: a multicentre review	INTERACTIVE CARDIOVASCULAR AND THORACIC SURGERY
63	井出 哲弥	周産期・婦人科 医師	Fetal critical aortic stenosis with natural improvement of hydrops fetalis due to spontaneous relief of severe restrictive atrial communication	JOURNAL OF OBSTETRICS AND GYNAECOLOGY RESEARCH
64	天木 誠	心不全科 医師	Does major noncardiac surgery accelerate the progression of aortic stenosis?	CIRCULATION JOURNAL 79, 766-767(2015)

65	北野 正尚	小児循環器科 医師	Ductal stenting using side-branch cell dilation for aortic coarctation in high-risk patients with hypoplastic left heart syndrome	Catheterization and Cardiovascular Interventions Epub 87(1):E23-
66	福田 健治	脳神経外科 医師	Efficacy of FLOW 800 With Indocyanine Green Videoangiography for the Quantitative Assessment of Flow Dynamics in Cerebral Arteriovenous Malformation Surgery.	WORLD NEUROSURGERY 83, 203-210(2015)
67	福井 重文	肺循環科 医師	Exercise intolerance and ventilatory inefficiency improve early after balloon pulmonary angioplasty in patients with inoperable chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	International Journal of Cardiology 180, 66-68(2015)
68	宮本 康二	不整脈科 医師	Impact of renal function deterioration on adverse events during anticoagulation therapy using non-vitamin K antagonist oral anticoagulants in patients with atrial	Heart and Vessels Epub 31(8):1327-36(2015)
69	宮本 康二	不整脈科 医師	Effect of Renal Function on Anticoagulation Therapy in Asian Patients.	CIRCULATION JOURNAL 79, 2,098-2,099(2015)
70	宮本 康二	不整脈科 医師	Larger Low Voltage Zone in Endocardial Unipolar Map Compared with That in Epicardial Bipolar Map Indicates Difficulty in Eliminating Ventricular Tachycardia by Catheter	Heart and Vessels Epub 31(8):1337-46(2015)
71	清家 愛幹	血管外科 医師	Preoperative Assessment of High-Risk Aortic Plaque by Magnetization-Prepared Rapid Acquisition with Gradient-Echo Imaging in a Patient with Total Arch Replacement	Annals of Vascular Diseases 8, 337-339(2015)
72	萬代 隆	健康診査室 医師	QUALITY OF LIFE DETERIORATIONS IN RESIDENTS WHO HAD TO MOVE TO ANOTHER CITY FOR EARTHQUAKE, TSUNAMI AND RADIATION DISASTER IN	Quality of Life Journal 16(2) (2015)
73	鎌倉 令	不整脈科 医師	Significance of electrocardiogram recording in high intercostal spaces in patients with early repolarization syndrome.	European Heart Journal 37, 630-637(2015)
74	木戸 高志	小児心臓外科 医師	Staged repair of hemitruncus without prosthetic material	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals Epub pii:
75	島原 佑介	心臓外科 医師	Transapical myectomy and surgical cryoablation for refractory ventricular tachycardia due to hypertrophic cardiomyopathy with apical aneurysm	European Journal of Cardiothoracic Surgery 48, 334-335(2015)

76	坂本 伸吾	血管科 医師	Vascular response to bare metal stents in the superficial femoral arteries as assessed by optical coherence tomography	CIRCULATION JOURNAL 79, 441-443(2015)
77	本田 伶史	心臓血管系集中治療科 医師	Characterization of coronary atherosclerosis by intravascular imaging modalities	Cardiovascular Diagnosis and Therapy Epub 6(4):368-81(2015)
78	石橋 耕平	不整脈科 医師	Improvement of Cardiac Function by Increasing Stimulus Strength During Left Ventricular Pacing in Cardiac Resynchronization Therapy.	International heart journal 56, 62-66(2015)
79	中島 啓裕	心臓血管系集中治療科 医師	Prognostic Impact of Spontaneous Coronary Artery Dissection in Young Female Patients with Acute Myocardial Infarction: Report from the Angina Pectoris-Myocardial Infarction	International Journal of Cardiology 207, 341-348(2016)
80	井上 優子	心臓血管内科 医師	Quantitative tissue-tracking cardiac magnetic resonance (CMR) of left atrial deformation and the risk of stroke in patients with atrial fibrillation.	J Am Heart Assoc 4, e001844(2015)
81	中村 雅一	脂質基準分析室長	Total cholesterol performance of Abell-Levy-Brodie-Kendall reference measurement procedure: Certification of Japanese in-vitro diagnostic assay manufacturers through CDC's	CLINICA CHIMICA ACTA 445, 127-132(2015)
82	中村 雅一	脂質基準分析室長	Comparison between the triglycerides standardization of routine methods used in Japan and the chromotropic acid reference measurement procedure used by the CDC Lipid	Annals of Clinical Biochemistry Epub pii: 0004563215624461
83	中村 雅一	脂質基準分析室長	HDL cholesterol performance using an ultracentrifugation reference measurement procedure and the designated comparison method.	Clinica Chimica Acta. 439, 185-190(2015)
84	光黒 真菜	臨床検査部 臨床検査技師	Effects of factor VIII levels on the APTT and anti-Xa activity under a therapeutic dose of heparin	INTERNATIONAL JOURNAL OF HEMATOLOGY 101, 119-125(2015)
85	和田 悠子	心不全科 専門修練医	Prognostic Impact of Functional Mitral Regurgitation in Patients Admitted With Acute Decompensated Heart Failure	CIRCULATION JOURNAL 80, 139-147(2015)
86	和田 悠子	心不全科 専門修練医	Clinical and Pathological Impact of Tissue Fibrosis on Lethal Arrhythmic Events in Hypertrophic Cardiomyopathy Patients With Impaired Systolic Function	CIRCULATION JOURNAL 79, 1,733-1,741(2015)

87	稗田 道成	心血管リハビリテーション科 専門修練医	Acute response test to adaptive servo-ventilation, a possible modality to assessing the reversibility of pulmonary vascular resistance	JOURNAL OF ARTIFICIAL ORGANS 18, 280-283(2015)
88	牧元 久樹	心臓血管内科 専門修練医	Clinical Impact of Mapping Strategies for Treatment of Ventricular Tachycardias in Patients with Structural Heart Disease	PACE-PACING AND CLINICAL ELECTROPHYSIOLOGY 38, 630-
89	川本 尚紀	心臓血管外科 専門修練医	Myers' 3-sinus reconstruction for supra-avalvular aortic stenosis involving left coronary ostium: report of a case	SURGERY TODAY 45, 1,064-1,106(2015)
90	川本 尚紀	心臓血管外科 専門修練医	Prosthesis-patient mismatch due to small ring annuloplasty in patients with degenerative mitral insufficiency	Journal of Cardiology Epub 68(2):141-7(2015)
91	横川 哲郎	心不全科 専門修練医	A case of acute decompensated heart failure evaluated by series of exhaled acetone concentrations as noninvasive biomarker of heart failure severity	International Journal of Cardiology 204, 112-113(2016)
92	東田 昭彦	心臓血管外科 専門修練医	Efficacy of "Awake ECMO" for critical respiratory failure after pediatric open heart surgery	Journal of Artificial Organs Epub 19(2):196-9(2015)
93	三嶋 剛	心臓血管内科 専門修練医	Visualization of Pulmonary Vein-Left Atrium Lesions Using Delayed-Enhancement Magnetic Resonance Imaging after Cryothermal Balloon Catheter Ablation: A Case Report.	Heart Rhythm Case Reports 1, 424-428(2015)
94	森本 和樹	心臓血管外科 レジデント	Impact of Ross Operation on Outcome in Young Female Adult Patients Wanting to Have Children	CIRCULATION JOURNAL 79, 1,976-1,983(2015)
95	宮城 哲哉	脳血管内科・脳神経内科 レジデント	Reduced Estimated Glomerular Filtration Rate Affects Outcomes 3 Months after Intracerebral Hemorrhage: The Stroke Acute Management with Urgent Risk-factor	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES 24, 176-
96	福間 一樹	脳神経内科 レジデント	Intracranial Cerebral Artery Dissection of Anterior Circulation as a Cause of Convexity Subarachnoid Hemorrhage	CEREBROVASCULAR DISEASES 40, 45-51(2015)
97	高谷 陽一	心臓血管内科 レジデント	Risk Stratification of Acute Kidney Injury Using the Blood Urea Nitrogen/Creatinine Ratio in Patients With Acute Decompensated Heart Failure	CIRCULATION JOURNAL 79, 1,520-1,525(2015)

98	柴田 龍宏	心臓血管内科 レジデント	Prevalence, Clinical Features, and Prognosis of Acute Myocardial Infarction Attributable to Coronary Artery Embolism	CIRCULATION 132, 241-250(2015)
99	坂本 悠紀	脳血管内科 レジデント	Relative systolic blood pressure reduction and clinical outcomes in hyperacute intracerebral hemorrhage: the SAMURAI-ICH observational study	JOURNAL OF HYPERTENSION 33, 1,069-1,073(2015)
100	坂本 悠紀	脳血管内科 レジデント	The relationship between the pre-admission CHA(2)DS(2)-VASc score and proximal artery occlusion in patients with acute stroke and atrial fibrillation	EUROPEAN JOURNAL OF NEUROLOGY 22, 1,081-1,087(2015)
101	小林 潤平	脳血管内科・脳神経内科 レジデント	Isolated Posterior Inferior Cerebellar Artery Dissection as a Cause of Ischemic Stroke: Clinical Features and Prognosis	CEREBROVASCULAR DISEASES 40, 215-221(2015)
102	岡田 卓也	脳血管内科 レジデント	Spontaneous heparin-induced thrombocytopenia syndrome without any proximate heparin exposure, infection, or inflammatory condition: Atypical clinical features with heparin-	PLATELETS 26, 602-607(2015)
103	大山 賢	脳血管内科 レジデント	Effective Education Materials to Advance Stroke Awareness Without Teacher Participation in Junior High School Students	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES 24, 2,533-
104	田所 直樹	血管外科 レジデント	Clinical Features and Surgical Outcomes of Coronary Sinus Orifice Atresia	Pediatric Cardiology Epub 37(2):387-91(2015)
105	高谷 陽一	心臓血管内科 レジデント	Comparison of outcomes in patients with probable versus definite cardiac sarcoidosis.	The American journal of cardiology 115, 1,293-1,297(2015)
106	高谷 陽一	心臓血管内科 レジデント	Outcomes in patients with high-degree atrioventricular block as the initial manifestation of cardiac sarcoidosis.	The American journal of cardiology 115, 505-509(2015)
107	森本 和樹	心臓血管外科 レジデント	Hybrid Repair of Proximal Subclavian Artery Aneurysm	Annals of Vascular Diseases 8, 87-92(2015)
108	山本 正啓	心臓血管内科 レジデント	Hybrid Therapy Consisting of Balloon Maceration and Subsequent Fogarty Thrombectomy for Subacute Lower Limb Ischemia.	JACC Cardiovasc Interv. 8, 1,633-1,634(2015)

109	山本 良也	心臓血管内科 レジデント	Progression of Intimal Hyperplasia and Multiple-Channel Formation After Fogarty Thrombectomy: Insight Into Vasculopathy From Optical Coherence Tomography and Intravascular	JACC-CARDIOVASCULAR INTERVENTIONS 8, e251-
110	徳永 敬介	脳血管内科 レジデント	Repetitive Artery-to-Artery Embolism Caused by Dynamic Movement of the Internal Carotid Artery and Mechanical Stimulation by the Hyoid Bone	Circulation 132, 217-219(2015)
111	森山 典晃	心臓血管内科 レジデント	Active cardiac sarcoidosis in a patient with adult-onset Kawasaki disease	Journal of Cardiology Cases 12, 68-71(2015)
112				
113				
114				
115				
116				
117				
118				
119				
120				
121				
122				

社

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の運営、「委員会の責務」、「倫理審査予備調査」、「審査の方法」、「研究許可申請手続き」、「迅速審査」、「研究者等の責務」、「実施状況報告の審査」等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 「利益相反マネジメントの対象」、「職員等の責務」、「利益相反マネジメント委員会所掌事項」、「調査結果に基づく処置」、「異議申立て」、「利益相反相談室の設置」等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 4 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 「研究不正の防止について」「研究倫理の基本的考え方」「既存情報・試料を用いる研究について : 倫理コンサルテーション事例から」	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

わが国の循環器病対策の一環として、循環器病診療に従事する医師に対し、高度の専門的知識及び技術を修得させ、技術・知識の向上を図ることを目的とする。

2 研修の実績

研修医の人数	85人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
安齊 俊久	循環器内科	心臓血管内科部長	27年	
豊田 一則	脳血管・神経内科	脳血管部門長	29年	
—	精神科			研修プログラム無し
白石 公	小児循環器科	小児循環器部長	34年	
小林 順二郎	心臓血管外科	副院長	36年	
市川 肇	小児心臓外科	小児心臓外科部長	32年	
—	整形外科			研修プログラム無し
高橋 淳	脳神経外科	脳神経外科部長	25年	
—	皮膚科			研修プログラム無し
—	泌尿器科			研修プログラム無し
吉松 淳	産婦人科	周産期・婦人科部長	29年	
—	眼科			研修プログラム無し
—	耳鼻咽喉科			研修プログラム無し
福田 哲也	放射線科	放射線部長	21年	
—	歯科			研修プログラム無し
大西 佳彦	麻酔科	手術部長	33年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：循環器病診療に従事する看護師、診療放射線技師、臨床検査技師及び臨床工学技士に対し、高度の専門的知識及び技術を修得させ、専門職員の技術・知識の向上を図ることを目的とする。・研修の期間・実施回数：10日間・1回／年・研修の参加人数：70人

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 峰松 一夫
管理担当者氏名	総務課長：山口 照太、医事室長：森田 健志、情報管理室長：船原 宏通、薬剤部長：老田 章

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	平成24年1月より診療記録は電子保存（電子カルテ）としている。従前のカルテ、X線フィルム等については1患者1ファイル方式とし、集中管理している。診療録等の院外持ち出しは原則禁止としている。病院長の許可を得た場合のみ可能としている。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究医療課
		高度の医療の研修の実績	研究医療課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	閲覧実績	情報管理室
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事室
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事室 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全室
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全室
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全室
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全室
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全室
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全室
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全室
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全室		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全室
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全室
		監査委員会の設置状況	医療安全室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全室
		職員研修の実施状況	医療安全室
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	医療情報部長：平松 治彦
閲覧担当者氏名	総務課長：山口 照太、医事室長：森田 健志、情報管理室長：船原 宏通
閲覧の求めに応じる場所	診療録等開示閲覧室
閲覧の手続の概要 円滑な運用を確保するため、情報公開窓口を設置し運用 ① 開示申請者から所定の申請書提出 ② 申請書を受けて開示・不開示の決定 ③ 申請者に対し開示・不開示の決定通知書の送付 ④ 当該文書等の閲覧	

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	② (有)・無
<p>・ 指針の主な内容： 第1章【1.趣旨 2.医療安全の基本的な考え方 3.医療安全に係る安全管理のための委員会・組織に対する基本的事項 4.医療安全に係る安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 5.センターにおける事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 6.医療事故発生時の対応に関する基本方針 7.医療従事者と患者との情報共有に関する基本方針 8.患者からの相談への対応に関する基本方針 9.その他の医療安全の確保のための基本方針】、第2章から構成。第2章は、用語の定義、第1章2～9の実務的内容を記す。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 ((有)・無) ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容：ア)医療安全管理指針の制定、改訂に関すること。イ)医療安全管理に関する職員への教育・研修に関すること。ロ)医療安全確保を目的とした改善のための検討に関すること。ハ)医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関すること。ニ)医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関すること。ホ)医療安全管理に関する研究、広報、院外活動に関すること。ヘ)医療安全上の訴訟に関すること。ヘ)診療に関する患者・家族からの意見、要望に関すること。コ)その他医療安全管理に関すること等</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容： 全職員対象医療安全講習会 ・ 第 1 回「苦情・クレーム対応研修 ～正しい理解があなたを守る～」 ・ 第 2 回「事故調査制度について」</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容：医療安全コア会議のメンバーがコメディカルを含む構成になっており、コア会議で検討した上、医療安全室員会議、推進担当者会議からの意見を集約し改善策を検討し、最終、医療安全委員会で決定し職員へ周知している。</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	② (有)・無
<p>・ 指針の主な内容： ① 院内感染対策に関する基本的考え方 ② 院内感染管理体制 ③ 職員研修 ④ 感染症の発生状況の報告 ⑤ 院内感染発生時の対応 ⑥ 患者への情報提供と説明 ⑦ その他の院内感染対策の推進</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容： ① 院内感染症の調査、予防対策の立案 ② 予防対策実施の監視と助言、指導、勧告 ③ 職員の教育指導 ④ 院内感染対策の指針及びマニュアルの作成・見直し ⑤ その他委員長が必要と認める事項</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 6 回
<p>・ 研修の主な内容： ・ 感染性病原体の伝播予防の基本、 ・ 手指衛生の基本と咳エチケット、 ・ 感染経路別予防策、 ・ 高度医療を支える院内感染対策、 ・ 難治性感染症に対する抗菌薬治療、 ・ エボラ出血熱について</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 感染対策室に報告がされ、感染対策室は感染対策委員会を開催し、原因究明及び感染拡大防止対策の立案を行う。加えて、必要に応じて現地調査を行い、状況を逐一院長に報告する。</p>	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	② <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容：	
・ 医薬品安全管理について	
・ 麻薬等の取り扱いについて	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)	
・ 業務の主な内容：	
①医薬品の採用 ②医薬品の購入 ③調剤室における医薬品の管理 ④病棟・各部門への医薬品の供給 ⑤外来患者への医薬品使用 ⑥在宅患者への医薬品使用 ⑦病棟における医薬品の管理 ⑧入院患者への医薬品使用 ⑨医薬品情報の収集・管理・提供 ⑩手術・麻酔部門 ⑪集中治療室 (ICU・NCU) ⑫輸血・血液管理部門 ⑬生命維持管理装置領域 ⑭臨床検査部門、画像診断部門 ⑮他施設との連携 ⑯事故発生時の対応 ⑰教育・研修	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)	
・ その他の改善のための方策の主な内容：	
医薬品メーカーおよび医薬品医療機器総合機構等から随時情報を収集。 院内webにてDIニュースとして発信。 重大情報・緊急情報については文書による回報を合わせて行い、各職員が伝達確認票に押印のうえ、専任医療安全管理者が回収し、伝達状況を確認している。	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	② 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 3 5 回
・ 研修の主な内容： ○第 1 回人工呼吸器講習会 (Servo i、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他) ○第 2 回人工呼吸器講習会 (Servo i、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他) ○第 3 回人工呼吸器講習会 (Servo i、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他) ○補助人工心臓勉強会 (Dura Heart、EVAHEART、Heart Mate II) ○PCPS講習会 ○IABP講習会 ○閉鎖式保育器講習会 ○着用型自動除細動器講習会 他	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 保守点検計画表に基づき、臨床工学技士若しくは委託業者により定期点検を実施している。また各使用部署において外観、作動状況等の日常点検を実施している。 ○日常点検 (始業時点検・使用中点検・終業時点検) ○定期点検 (電気的安全点検・外観点検・機能点検・性能点検・定期交換部品等の交換等) ○故障時点検 (定期点検に準じた点検を行い故障箇所を特定する)	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品・医療機器安全情報をはじめ、メーカーからの提供情報、インターネットによる情報検索により、医療機器の安全使用関連情報を収集し、医療安全委員会等で資料を配付し、各職場で伝達している。 伝達状況については伝達確認票を回収し、確認している。	

(様式第6)

規則第9条の23第1項第1号から第15号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全担当副院長を医療安全管理責任者として配置している</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書及びチェックリストを作成。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>薬事委員会規程及び病院倫理委員会規程と業務手順書を定めた。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有 無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・規程の主な内容：説明事項・説明範囲・成立要件・手順・留意事項について</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有 無
<p>・活動の主な内容：診療情報管理室長の監督のもと、診療情報管理士が診療録等を管理し、責任者の医療情報部長に報告している</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況 様式 8-6 (経過措置) 提出済	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（ 1 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ 5 ）名 うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 2 ）名 うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 1 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ ）名 ・活動の主な内容： <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 様式 8-6 (経過措置) 提出済	
<ul style="list-style-type: none"> ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・規程の主な内容：申請手続き、審査の方法等 ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） 	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 様式 8-6 (経過措置) 提出済	
<ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・規程の主な内容：申請手続き、審査の方法等 ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） 	

⑨ 監査委員会の設置状況 様式 8-6 (経過措置) 提出済

有 無

- ・ 監査委員会の開催状況：年 回
- ・ 活動の主な内容：

- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
- ・ 委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況 (H28. 4~H28. 9)
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 7 5 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 1 0 件 ・医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・インシデント・アクシデントの把握 ・特定機能病院の承認要件に関する検討と決定
⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院への立入り (有 (病院名：)) ・無) ・他の特定機能病院からの立入り受入れ (有 (病院名：)) ・無) ・技術的助言の実施状況 様式 8-6 (経過措置) 提出済
⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <p style="margin-left: 20px;">患者相談窓口を設置し、平日の 8 : 3 0 ~ 1 7 : 1 5 に外来 1 番窓口にて対応する。また、窓口設置について院内掲示もしている。</p>
⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
⑭ 職員研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 新採用者研修として、当院におけるインシデント・アクシデント発生状況と特徴、発生時の報告方法、インフォームドコンセントや医療安全に関連する記録記載時の注意点についての説明、インシデント発生後の改善策としての院内ルールについて説明を実施。 <p>年 2 回実施する医療安全研修は前年度の研修時に実施したアンケートに基づき、講師を招き全職員を対象に実施。理解についてはアンケートにより把握している。e-learning の導入については未定。</p>

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修
の実施状況

・研修の実施状況

様式 8-6 (経過措置) 提出済

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による病院機能評価 平成27年6月5日認定（平成27年3月11、12日受審）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページで循環器に関する主な疾患について、その原因や治療法などについて分かりやすく紹介している。 定期的に市民公開講座を開催し、循環器疾患かかる情報提供・啓蒙活動を実施している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 各診療科にコンサルティングドクターを設けており、速やかな連携を図っている。	

(様式第 8)

国循病発総第 16090802 号
平成 28 年 9 月 8 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立研究開発法人
国立循環器病研究センター (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

医療安全担当副院長を医療安全管理責任者として配置済み

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

医薬品の安全使用のための業務に関する手順書及びチェックリストを作成済み。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

医療情報部長を責任者として配置し、説明の有無に関する確認は診療情報管理士が行い、責任者に報告する体制を整えた。

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

インフォームドコンセント（IC）の説明時において、説明事項・説明範囲・成立要件・手順・留意事項について医療安全管理マニュアルとして既に整備済み。

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

医療情報部長を責任者として配置し、診療情報管理室長の監督のもと、診療情報管理士が管理し責任者に報告する体制を整えた。

6. 規則第9条の23第1項第10号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

インシデントレベル 3-2 以上は院内事例検討会を開催し、発生経過、対応、改善・予防策について検討している。

死亡可能性の高い重症患者は主治医からの依頼により、一部の幹部医師と医療安全室で重症回診を行い、診療の妥当性や説明義務が果たしているか確認。死亡時に医療安全室に連絡またはカルテで死亡を把握している。重症回診未実施死亡例については現時点ではGRMがカルテビューを行い、不審点については医療安全部長に報告している。また、院長・副院長より死亡報告の際、詳細確認が必要と判断された事案についてカルテビューを行い報告している。さらに医療安全委員会において全死亡患者を一覧化し重症回診の有無を合わせ報告している。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

既に法令順守違反行為に関する内部通報窓口を設置しており、医療安全に関する内部通報窓口についても同窓口を使用する事が決定したため、今月中に従業者への周知文を配布の予定。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

診療内容のモニタリングとして心肺蘇生状況について調査・分析を実施。また、インシデント・アクシデントの発生状況・分析を毎月開催される医療安全関連会議で報告、対策を検討・実践し発生推移をモニタリングする。さらに医療安全室メンバーGRM・専任看護師でリスクラウンドを実施、その結果を関連会議で報告し、意識向上を図る。

研修受講状況について出席状況を把握している。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

臨床倫理室において病院倫理委員会を開催し、高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する体制を整えた。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業員が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

病院倫理委員会規程及び業務手順書を定めた。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

薬事委員会及び病院倫理委員会を開催し、未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する体制を整えた。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

薬事委員会規程及び病院倫理委員会規程と業務手順書を定めた。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

H29.3.31 までに監査委員会規程を作成・施行し、それに則り委員を決定し、委員会を設置・開催する予定。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

現在国立高度医療センターにおける病院間医療安全相互チェックを実施している。今後は特定機能病院同士での組合せによる実施を検討。次回平成 29 年 12 月に国際医療センターによる立入調査を受審する予定。また、先日開催された特定機能病院連絡会議において年度内に立入調査組合せ、方法を通達予定であるとの事、それに従い実施を予定。

15. 職員研修を実施するための予定措置

新採用者研修として、当院におけるインシデント・アクシデント発生状況と特徴、発生時の報告方法、インフォームドコンセントや医療安全に関連する記録記載時の注意点についての説明、インシデント発生後の改善策としての院内ルールについて説明を実施。

年 2 回実施する医療安全研修は前年度の研修時に実施したアンケートに基づき、講師を招き全職員を対象に実施。理解についてはアンケートにより把握している。e-learning の導入については未定。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

先日開催された特定機能病院連絡会議において外部の既存研修の受講で良いと情報を得たので、今後適切な研修を選択し、受講を計画する。対象となる研修が示され次第、H30.3.31までの受講を計画する。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（ 1 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ 5 ）名
- うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 2 ）名
- うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名
- うち看護師：専従（ 1 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ ）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

現状の業務等を見直し・ヒアリング・検討等を行い、必要に応じて配置換等で専従職員が配置できるよう進めていく予定。医師については、H32.3.31までに就業時間8割以上を当該業務に従事する者を1名配置する予定。